

個的社会と高齢社会

一橋大学名誉教授 高田一夫

今や人口は、高齢化を通り越して高齢者に到達してしまった。社会保障が破綻するとか、費用負担で現役労働者は生活を圧迫されるとか、高齢労働者の存在で若者の仕事がなくなるとか、いろいろ心配されてきたが、何とかなっているように思う。たいへん目出度い。

こうした心配は杞憂であることを授業でも主張してきた。ただし、私は労働力不足経済は来ないと思っていたので、この点は予測が外れた。これは少子化が新規労働力を減らしたため、低成長経済の下で新しいバランスが取れてきたのである。

他方、日本経済は長い間、物価を下げてきたため賃金もそれにつれて下がってしまった。この問題が最近、注目されている。これを是正するには物価も上昇することになる。これが日本経済の次なるバランスの取り方になるだろう。

要するに経済はチョボチョボで、まあ何とかなりそうだ。その中で、高齢者はどういう暮らしをするのか。貯蓄を吐き出しながら、自己決定を追求する生き方を模索するのではないか。なぜなら、社会は自己決定を基礎とした個的社会に向かって進んでいるからだ。